



板垣諭史  
小泉研究室

## 空き道

敷地：大宮氷川神社参道  
用途：宗教装置・共用空間



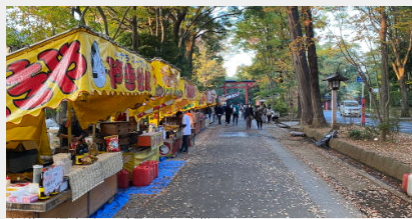
### 参拝のための参道へ

大宮の氷川神社には2000年を超える歴史と日本一の参道を有しており、その並木道も丁寧に保存がされた街のシンボルとなっている。  
しかし、形無き信仰において、本当に守るべきは形ではなく参拝行為そのものではないだろうか。  
参拝行為を往・復路に分け、その体験を守る装置を神道の「見立て」に倣って設計する。



### 参拝とは

参拝は自身の祈りに向き合い、神に対して敬意を払う「聖」の行為である。  
一方で、時代が進むにつれ災害などに関する祈りは重要ではなくなった。参拝行為が形式的になり商店が入り始めることで、参道沿いは「俗」的な賑わいを見せるようになる。  
しかし参拝の往・復路にある真逆の特性は、現在の参道には混在し、同時に周辺の街に遮断されている。



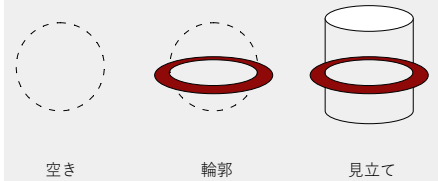
参道に混在する「聖」と「俗」



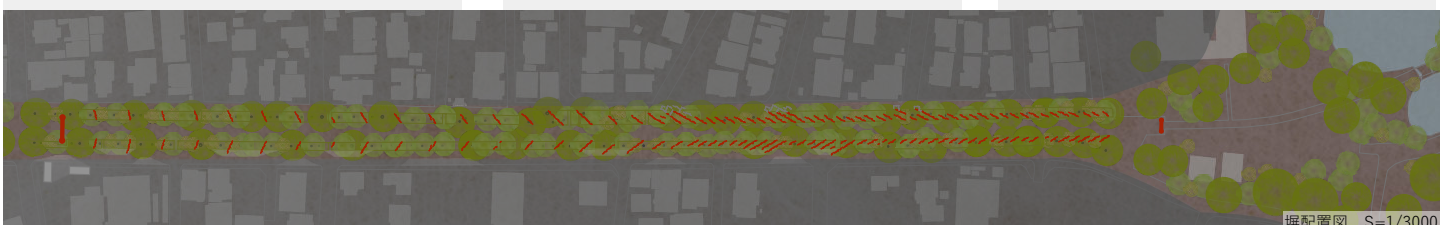
参道を遮断する高い塀と道路

### 「見立て」と「空き」

神道は信仰の対象に「しめ縄」を施す。これは、本来意味を持たない場や自然物に対してしめ縄で輪郭を与えることで神を「見立てる」ものである。  
ここでいう輪郭を帯びる前の場を「空き」と名付け、参拝の往・復路にある「空き」に対してわずかな輪郭を施していく。  
やがてその「空き」に大宮の活動が宿っていく。



しめ縄

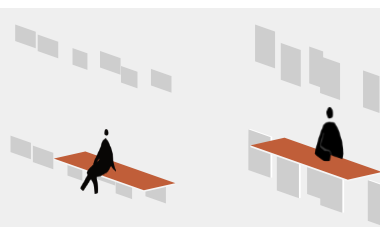




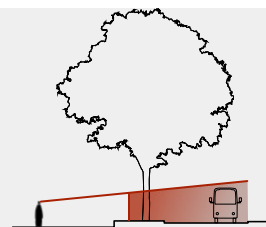
## 塀

参拝行為の往・復路の体験を視覚的に切り替える塀を設置する。

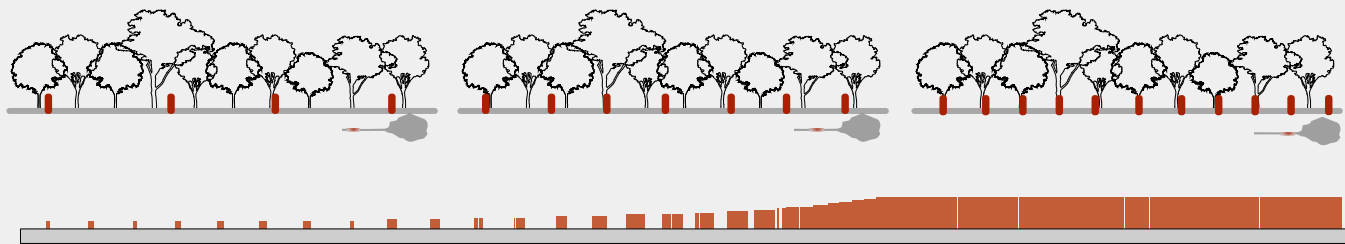
高さ・間隔・角度の三つのパラメーターに分け、それぞれを関数的に変化させることで境内に向かって神性に満たされる感覚を与える。



使われ方が変化する

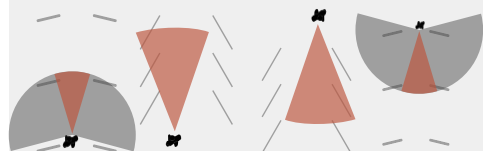


やがて「俗」が遮断される

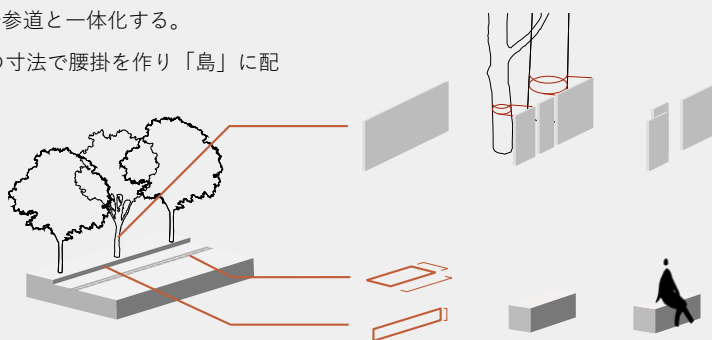


八の字に構成することで往路では参拝者の視界から少しずつ「俗」を取り除き、復路では逆に外の景色を縁取り、輪郭を与える。

同時に石畳や垣根の寸法で腰掛を作り「島」に配置する。



往・復路での視野角

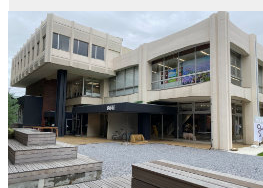


## 島

参道の沿道沿いには住宅地が広がっているが、その中でも「氷川の杜文化館」が文化交流拠点、「マルシェ大宮Platto」が飲食拠点、「Bibli」が観光・市民活動拠点として新しい活動を発信し続けている。

そこで、参道と周辺で行われる市民活動とを分断する車道に人が滞留する「島」を設け、沿道沿いの施設の活動を屋外に染み出させる。参道から沿道に抜ける横道を利用し参拝者が島から島を渡ること次第に沿道は裏参道と化していく。

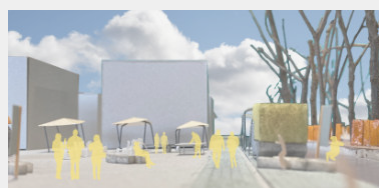
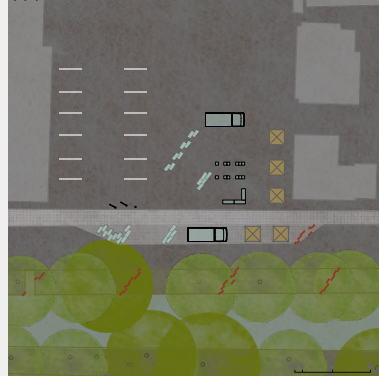
現在の各施設



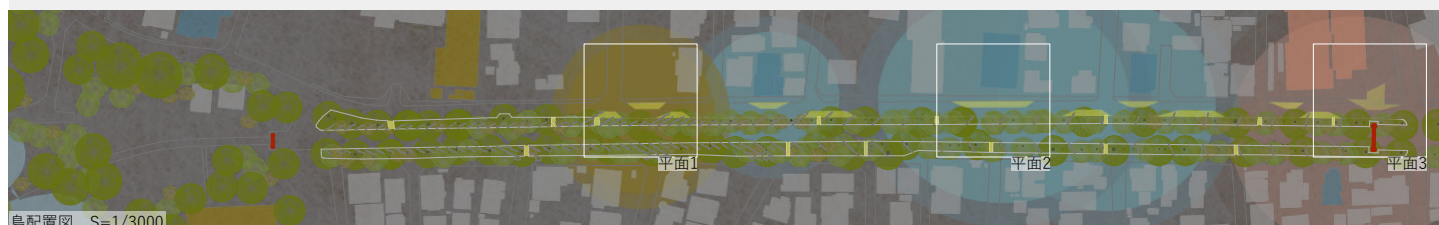
平面1



平面2



平面3



島配置図 S=1/3000